

第46回原電前抗議行動報告

プログラム

- ・開会のあいさつ
- ・シュプレヒ・コール
- ・主催者スピーチ
- ・脱原発スピーチ
- ・申入書受け渡し

- ①首都圏連絡会
- ②反原発自治体議員・市民連盟
- ・申し入れ(後藤政志さん)
- ・参加者スピーチ
- ・原電前アクション音楽
- ・行動提起
- ・シュプレヒ・コール
- ・閉会のことば

参加人数:58名 ¥100カンパ金額:¥11,382



今回の司会は私(志田)。原電の職員が表へ出てきて申入書を対面で受け取るのだったけど、正面玄関ではなく、裏口でしかも、その裏口に来るのは関係者(主催者)のみしてほしいのだった。それをアナウンスするところからの司会の開始で何ともやりきれない気持ちで開会のあいさつをした。



そしてシュプレヒ・コールはいつも通り中村さん(首都圏連絡会)にしてもらった。今回から9月まで夏時間ということでこの抗議行動の終わりが15分伸びたのを受け、いつもは最後に1回のところ、始めにもしてもらった。いつもながらパワフルなコールで、聞いて、そして一緒にコールをしていて元気が出てきた。



スピーチの要旨
首都圏連絡会の柳田です。たんぼぼ舎出身です。2つ述べたいと思います。1つは、「原発が原爆になる恐ろしさ」、「原発が核爆弾になる恐ろしさ」、乱鬼龍さんの川柳ですね。今のウクライナの問題も含めて本質を表しております。もともと原発と原爆はそういう

要素を持っているんです。みなさん、例えば中国や韓国や台湾で何と言っていると思いますか。原発と言っていないですよ、核燃と言ってます、核燃と。つまり、日本ではNUKES、原爆の時は核と訳し、原発の時は「原子力」と。つまり1つの単語を2つに分けて国民に対してごまかしてきた。戦後の時からつい最近まで騙されてきた、革新政党もあったんですが、それで原発が原爆になる恐ろしさ、つまり核燃なんだよと。核なんだよと。そういう風に騙されてきたのが日本の(脱原発運動の)一番弱い面だったのですが、今回の原発が原爆になる恐ろしさ、そして中国や韓国や台湾で言っているような、原子力発電ではなくて、核燃と言われている。世界はそちらが普通なんです。つまり核燃、原発の本質が今回の戦争で明らかになった。つまり、原子力発電をいっぱい並べて平和を成し遂げることなどできないのですよ。あそこを攻撃すればいっぺんで相手をやっつけられる、そういう風になるんですね。そういうことでまず、原発が原爆になる恐ろしさ、このことをまずもう一度掴みたいと思います。

その上で2つ目になりますが、原発＝核燃をやめさせる近道は何か。「全原発をすぐやめてくれ」と私たちは言いたいです。ただ、最低、「老朽原発はすぐやめろ」と。

老朽とは40年を過ぎた原発。今のところ日本に4つあります。関西に3つ、関東に1つ。その1つというのは、ここがやっている、日本原電・東海第二原発、これです。これら4つをまず廃止させると。

実は公明党がこの「老朽原発廃止」に賛成してるんですよ。つまり自民と公明が股裂きになる。違う態度になる。例えば水戸市議会でこの老朽原発が20年延長になるとき、水戸の公明党市議団は反対しました。したがって反対派が勝ったんです。それで水戸の市議会では20年の延長がNO！になりました。東京にも波及して西東京市とか他でもなりましたね。ですから私たちは今の運動を全力で頑張りますが、相手も意見が違ってる、公明党が、意見が違っている、そういうことも活用して核燃なくす、そういう運動をみなさんと是非つくっていきたいと思います。

今月の5月29日、関西で大きな市民集会が開かれます。(実行委員会の)木原さんたちが行う運動でなんと、市民運動だけで1,000人を超す大きな集会になります。私たちもここに人たち10人ほどで関西へ出かけます。「老朽原発今すぐ廃炉!」、関西に3つ、関東に1つ、この運動をぜひ頑張りたいなあと。で、これをやることによって、今後続々40年を超す老朽原発が出てきますがそれをやめさせていく道筋ができる。それがやがて全原発廃止への近道ではないか、そういう風に思います。

併せて、選挙の、6月公示、7月投票の参議院選挙ではこの首都圏連絡会は選挙でも「老朽原発廃止」を訴えようと。自民党は選挙で訴えると票田の上で得ではないと、核燃のことは言わないというスタイルですが、私たちはむしろ「老朽原発廃止」を、それを一緒に言っていきたいなあと。そういう意味で、「原発が原爆になる恐ろしさ」この文質を捉えて核燃に反対しましょう、一緒にがんばりましょう、ありがとうございます。





脱原発スピーチ
後藤政志さん
(元原子力プラント設計技術者)

スピーチの要旨

みなさん、こんにちは。私は今紹介頂きましたように原発を設計してきた立場です。ですからここで偉そうな顔をして話すのが憚れる(はばかれる)立場です。ただですね、原発が危険である、ということは私は正確に認識している立場の者ですからそういうこととお話をさせていただきます。

10分くらいのイメージで話をさせていただきますが、まず1つ、私たちがなぜ原発に嫌悪感を抱くかという、ほかの技術と全く違う、ということですね。普通はですね、事故が起こったらですね、火力発電だろうと他のプラントであろうと火災になったらね、ほっとけばいいんですよ。1週間でも2週間でもね、燃え尽きるまでほっとけばいいんですよ。人が亡くならなければいいんです。ですが原発はそこから勝負なんです。火災が起こって冷却ができなくなるとご承知のように放射能が大量に出てきますから、ここで放射能を閉じ込めることができれば、私はそれ以上のことを言うつもりはありません。

ところがですよ、事故の時に放射能を閉じ込める格納容器というものが原発には全部あるんです。だからチェルノブイリの時も日本の原発は「格納容器があるから大丈夫なんだ」とこう言ってきたんです。私もあまり声を荒げて言うてはきませんでしたけど、「格納容器が壊れなければみなさんに迷惑をかけることはない」と、そのつもりでいたんですよ。ところが福島事故ではあのような事態で本当に面目ないと、私自身も原発は危ないと思ったんですけどこんなことになると思ってなかった。それはなぜかというところをこれからお話します。何を甘く見てたかということをお話します。

原発は先ほど柳田さんからもお話があったように老朽原発であると。それから地域的に言うと東海第二が首都圏に近くて非常にリスクが高い。それと同時に東海第二は出力が大きいんです。福島の原発よりはるかに大きい。〇〇〇〇と言うんですけどね。日本の大型の標準型なんです。しかもですね、プラントのタイプとしては一番古い。古いと何がいけないかというと格納容器の大きさが違うんです。小さいんです。MARK II型と言いますが、専門的には、MARK II型の格納容器の中で一番小さいんです。出力に対してですよ、出力の割に。これが何を意味するかというと事故が起きた時にいわゆるベント、事故が起きた時に早期に放射能が排出されるわけですよ、そういうことが想定されるんです。そういう危険があるんですけど今日私が一番お話ししたいこと、これからお話します。

今の規制基準がありますね、で、規制基準を通ってますね。ですけども、それはウソだということです。何がウソかと言いますと、一つ言います。水素爆発です。水素爆発が起こった、どこからどの経緯で漏れてどのように爆発したか、これをずうっと議論してきています。特に新潟県では技術委員会で、〇〇〇〇と言って

「1号機の5階で爆発した」、と言ったら、「いや、4階で爆発した」、そういう議論をしているんです。で実はこれは東海第二と関係ないように思えますが実は本質的な問題で、原発が炉心溶融を起こすと水素が大量に出る。500kg、600kgあるいは900kg出る。その水素をですね、今、この水素はこういう経路でこういう風に出るからこの部分にこういう装置をつけなければいい、そういう風にして今強化をしているんです。ところが規制委員会が自ら入っている中間とりまとめという、今年の3月に出している、これ中間報告ですよ。ここではどこでどのように水素爆発が起こったか分かってないと。しかも水素だけではなくて他のガスも混じって爆発してる。こう言ってる。なのに何で審査が通るんですか。おかしいでしょ。もう規制委なんて真っ向からおかしいんです。で、これからこれは対応する、とか言うと思うんですけども私が心配してるのはその態度です。もともと福島の事故は思わぬかたちで起こったわけですよ。それで最後は格納容器の圧力が上がっちゃってベントがうまくできなかった。そういうわけですよ。ところがそれだけじゃないんです。報告書を見て分かるように、水素が建物の中に充満すると爆発するのは分かっているからベントと言って格納容器の中からガスを出すんです。それを出せばOK、と言いますかね、それで出せば水素爆発は起こらないぞ、ということでガスを出したんです。ところがガスを出したときにそれが逆流して建物の中で爆発してるんですよ。安全装置が爆発装置になってるんですよ。それが技術的な正しい理解です。でそのことに対してはどのように処理してるんですか？というのが私の質問です。

で、そういう基本的な問題をすっ飛ばしてね、やれ、津波対策だとか地震対策だとか抽象的にそういうことだけを言っているのが現在の

規制のあり方。ですから少なくとも日本のBWRの水素爆発の対策は全くできていない。なのにOKが出て。柏崎の6、7、東海第二、女川2号それから島根2号ですね。こういう原発が通ってますけども、ですからそれは再審査のやり直し。それが当たり前です。それができないようでしたら規制委員会なんて存在しない、という風に理解します。

それが一つ、そのうえでですね、もう一つ申し上げたいことは水素爆発ですね、今私はすごく大事な話だと知りましたがそれは何故かというと、本来ならば格納容器が水素爆発を起こしていたらこんなもんじゃないですよ。東京もやられてた可能性が高い。ですけど幸いなことに格納容器の中には窒素を封入していたので、これは私が設計上そういう風にやっていたから、それがあつたおかげで格納容器自体は何とか免れたんですね。ですけども格納容器から外に漏れたのが爆発したわけですね。そうすると2次的に出たもので爆発したわけですよ。ということはもっと恐ろしいことになる可能性が高くて水素爆発対策というのはもっと本格的にやらなければ無理です。私に対応した(設計技術者の)時には水素はメルトに無かったんですね、設計の時に。格納容器の中に。それを私は非常に悔いているわけですね。ところがそれが今は形ばかりになっている。形ばかりということの意味を申し上げますと、例えば水素がどこでどういう風に漏れるかという、圧力温度でここでこれだけ漏れるよって計算で出すんです。そういうものを計算で出すということ自体に無理があるんです。例えば漏洩率というものがありますね。そういうものを私も計算してるんですけどもそんなものはですね、事故の形態によってけた違いに変わってくるわけですよ、当たり前ですよ。例えば航空機の事故だったらどのように起こるか分からないですけども、最悪の時には当

然墜落する、というのは頭を過りますよね。原発もそうなんです。福島事故はその最後までいってないんです。もっと手前で止まっている。にもかかわらずその対策があまい、というのが現状なんです。事故を想定して、このような事故が起こるかもしれない、というのはある、まあ一定の限度としていいかもしれない。でも全部、この場合はこういうかたちで、って分かるんですか？ 交通事故を考えても分かると思います。ある所に限定した事故でパターンがどれだけあるか。何万あるか分かりませんがそんなもの全部カバーするなんてあり得ないでしょ。つまり事故というのは思わぬ形で起きてそれに対して対策をする、これが一番大切なんですけどそれができていないし、それが無理なんですけどね。でも無理と言ってそれなりの対策をするのならまだいいと思うんですけど、あたかもこれで安全が担保されたということ言うのはいい加減にしろ！、ということです。

その対策をしたから事故を起こさない、ということを保証するならいい。でもそんな保証に全くなっていないから私は言いたいのです。

東海第二の裁判では私も相当支えています。格納容器のことは私は専門なんですけどね、残念なことには原電さんの方は真っ向から捉えていない。何というか想定ををもとにしての話にしかになっていない。今あるプラントををもとにした議論になっていない。ここが噛み合っていないとこなんです。こういうことをやっているとい電力会社の問題だけにとどまらず、全原発の問題の根底から〇〇〇〇〇だと言わざるを得ない、と私は思っています。今、私は日本で一番危険な原発は東海第二だと思っています。ぜひ、東海第二を止めるようみなさんと頑張っていきましょう。以上です。

日本原電への申し入れ



首都圏連絡会の申入書読み上げはたんぼぼ舎の山田和秋さんにして頂いた。その山田さんの申し入れは、具体的にこの間発生している6つもの地震を説明し、「東海第二原発の再稼働工事を中止することをためらう猶予など一刻もない」ことを断言した。

また、広域避難計画の不策定や特定重大事故対処施設の工事も進捗していることが確認できないことにも触れ、再稼働工事の断念が現実的な選択肢であることを示した。



今回の反原発自治体議員・市民連盟の申入書読み上げはけしば誠一さんが行った。

第1に、山田さんと同様にこの間東日本で頻発する地震に触れ、そのうえで東海第二の脆弱性について話した。

第2に、ウクライナでの戦争に触れ、そのうえで‘原発が原爆になる恐ろしさ’を説き、東海第二の原子炉のみならず、その周辺にある再処理施設もその対象になることも示した。

第3に、再稼働工事の遅れを指摘し、しかも再稼働したとしても採算性の確保が困難であることにも触れた。

第4に、多くの自治体の避難計画策定ができていないことを示した。



そして今回は予定にはなかったが元原子炉プラント設計技術者として物申したい、と後藤さんが進んで原電の職員に申し入れをした。

後藤さんは東海第二原発が稼働できるとするその規制基準が論外といえるほどに愚かなものであることを、元プラントの設計者という立場から申し入れた。

そしてその申し入れは、ただ専門家としての説得力のみにとどまらず、後藤さん自身の心の奥底の魂から感じる原発の再稼働に対する恐怖を感じ取れるもので、そのうえで‘絶対に原発を動かしてはならない’という強い確信も感じられたものだった。



参加者スピーチ
木瀬慶子さん
(脱原発かわさき市民)

スピーチの要旨

すみません、私は今日、突然代わりのスピーチをすることになったのでうまく話せるか分かんないんですけど、10年くらい前に、福島事故があってそれまで安全神話に騙されていた、ということに気づいた人たちが自然発生的に集まって、‘脱原発かわさき市民’をつくりました。代表も各自の役職もない自然発生的な市民運動なんですけど、10年くらい毎月1回必ず10~15人くらいで川崎の溝ノ口と登戸で街頭宣伝をしています。私たちの思いは絶対に福島のようなことは繰り返してはならない、という強い思いで続けています。そしてこの原電前とそのあとの東電前の行動にも必ず誰か参加してその思いを伝えるということをやっています。

今、ウクライナの戦争に乗じてなんか原発を動かさなければならぬ、という動きがまた出てきましたけどそんなことは絶対に許されないことだと思います。その思いで来ています。

そして今度、6月の11日に子ども甲状腺がんの裁判が始まるのに合わせて‘市民の集い’というのを行うようにしました。こうした人権侵害が行われている、ということを経路からしっかりと声を上げていきたいと思ひます。

それでここで最後にコールだけしたいです。1回だけでいいです。
東海第二うごかすな！ 東海第二うごかすな！ 老朽原発うごかすな！ 老朽原発うごかすな！

やめろー！



ブルース本来の‘心の叫び’が表現された

今日のミュージックは、♪1. 君と僕の未来、♪2. 海岸の舟歌、♪3. One letter HA one word(one love) の3曲。

♪1の君と僕の未来はいつものポップなリズムでの楽曲かと思いきや、ギター音をかなり抑えたかたちでボーカルの歌が空間に響き渡った。このポップス曲の君と僕の未来がギター音を抑え、ボーカルの声を強調するとブルース曲に生まれ変わる、という化学変化を感じることができた。

♪2の海岸の舟歌はご存じのように生田まんじさんのブルース曲だが、今回はなんとブルース曲の、♪未来の命を守る闘志(Dust in the wind)を持ち歌に持つ、ダンサーでもある右田春夫さんが歌い上げた。これは当然ギター音を抑え、歌詞を強調するブルース曲だが、右田さんが歌うことによってそのブルース感が色強く出た。まさにブルース曲本来の‘心の叫び’が表現されていた。

♪3のOne letter HA one word(one love)は、なんとジョニーさんが全部英詩で作曲したものだった。一言でいえば廃炉を訴えたものなのだが、英語の特性を活かしながらも歌詞のニュアンスは日本語のものが多く取り入れられ、しかもプログラムの歌詞は私に全部英語で書かせておいて途中から日本語になりかつ異訳して歌い上げられた。

さらにこのアドリブ全開の曲は2番からあの、‘♪ドレミの歌’にコード変更して歌い上げられ、しかも歌詞カードなしでも参加者が歌える曲調になっていった。

総括すると、♪1と♪2の曲はいつもの曲と言えるがギターが4本もあるにも関わらず、ギター音を抑え、ブルース本来の‘心の叫び’が上手く参加者の耳に響き渡ったもので、♪3に至ってはそれにジョニーさんのアドリブ全開の完全なコード変更によって参加者の心がミュージックに引き寄せられるものとなっていた。



東海第二うごかすな、やめろー！



行動提起
久保清隆
(首都圏連絡会)

今回の行動提起は久保(首都圏連絡会)が行った。それは、簡単に3つほど行動提起をさせていただきます。来月は1日、17:00からここで抗議行動を行います。原電の人も外へ出て対面で申入書を受け取るようになりましたし、これは誰が書いても構いません。もし書きたい方は申し出てください。

もう1つは、6月10、11、12日に行われる一斉行動があります。これへの参加は団体、個人問いません。東海第二の認知度はまだまだ少ないです。この一斉行動で‘東海第二の再稼働阻止’の声を広げていきたいと思えます。どうぞすすんで参加して下さい。

最後に、今月29日の‘おおさか大集会’について。この集会は関西の老朽原発である美浜や高浜が止まっっていてこのまま止めてしまおう、と、今が山場です。1000人以上が参加します。みなさんどうぞ参加を申し出てください。以上です。というものだった。

このあと中村さんにシュプレヒ・コールをして頂き、司会の閉会のあいさつをもって第46回原電前抗議行動は終了した。

次の原電前抗議行動は6月1日(水)17:00~18:00。
そのあとの東電前行動は、18:45~19:45。

5月29日(日)は、
‘老朽原発このまま廃炉’ in
おおさか大集会。
翌30日(月)は、
日本原電・敦賀事業本部への申し
入れ行動。

6月10(金)~12(日)は、
一斉行動・第4波。

です。

みなさん、奮ってご参加下さい！

